

低線量被曝でも発がんリスク

米国科学アカデミーは、「放射線被曝には、これ以下なら安全」という量はないと発表

米国科学アカデミー…アメリカの科学分野で、最も権威ある国立諮問委員会。

(日本学術会議に相当)



自然放射線と 人口放射線は ちがうの？

六十万年の間、
人類は微量な
自然放射線とともに
生きてきた

そして

自然界放射線を
出す物質を

体内で認知し、

体外に排出する

メカニズムを持った

工場で生産される

人工放射性物質は

六十年前に

突然現れ、

人体にとっては

全く未知の物質

しかも、

自然界の

ミネラルや金属と

よく似ているので

人体は

栄養と間違えて

体内に取り込み、

決まった臓器に 集中して

濃縮する

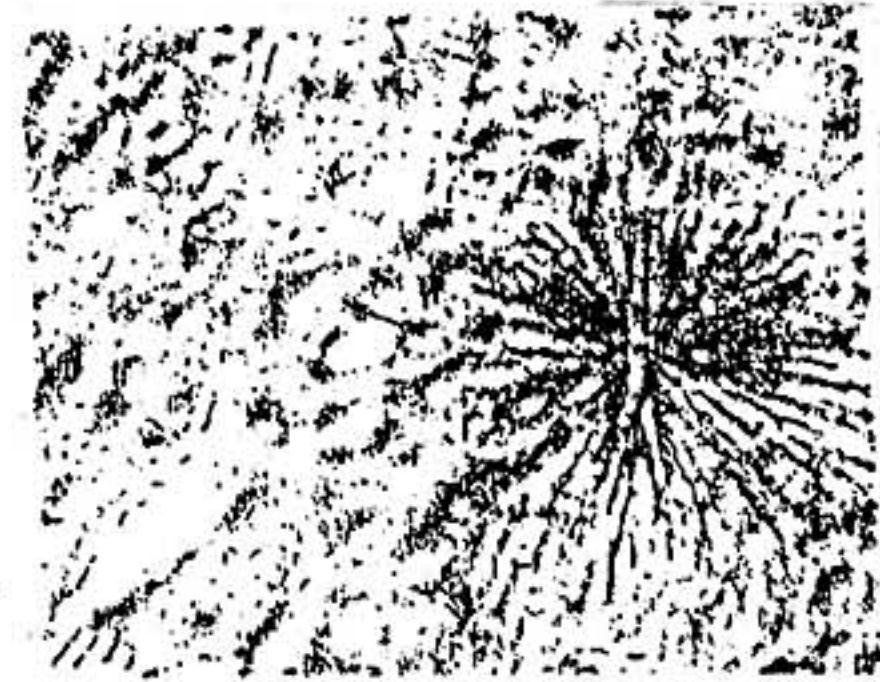
内部被曝の脅威

ちくま新書



内部被曝とは？

肺組織中で
放射線を出している
プルトニウム



内部被曝の
脅威

ちくま新書

脅威

呼吸や飲食を通して

体内に取り込まれた放射性物質は

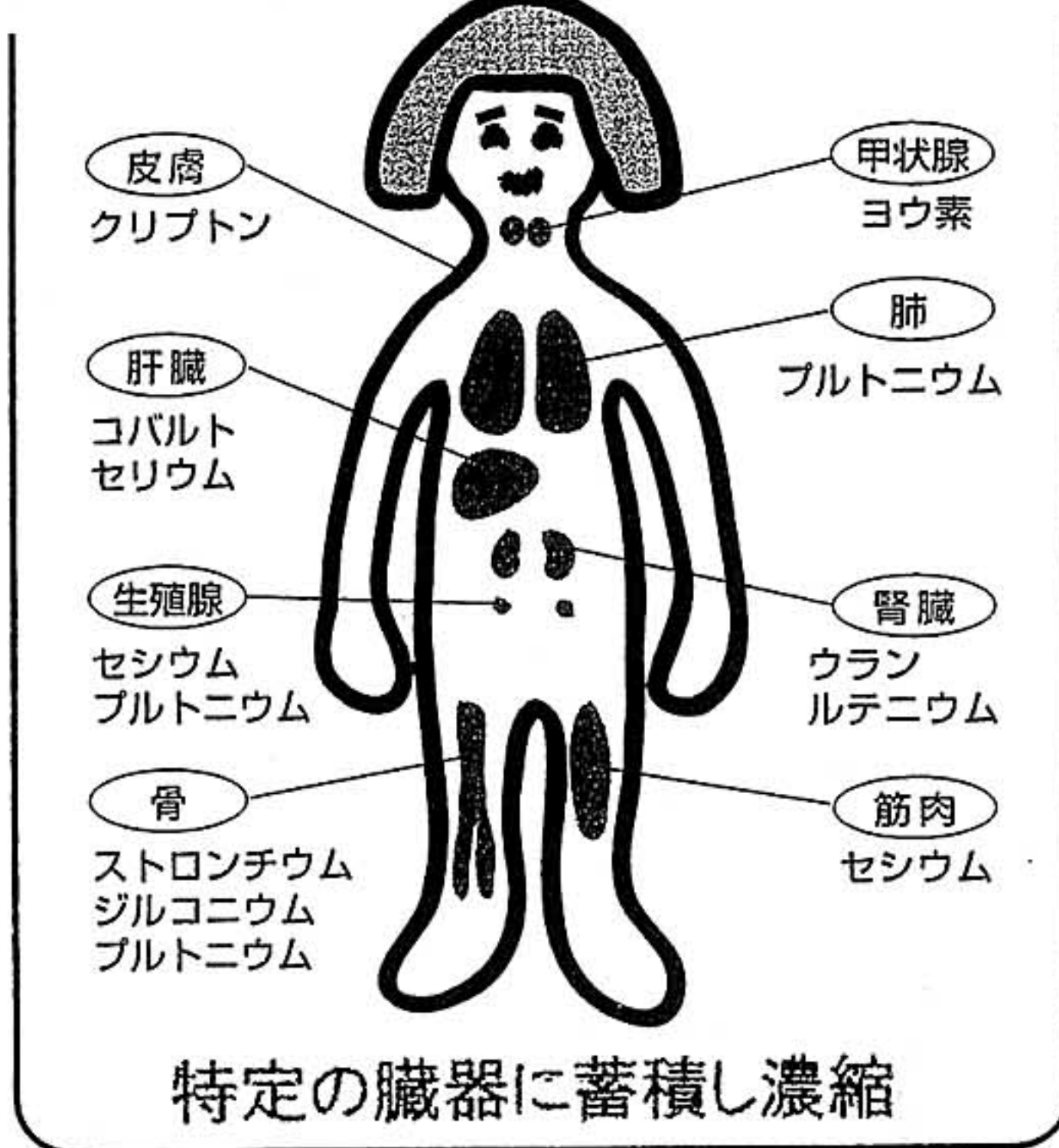
まわりの細胞を 放射線で傷つけ続け

染色体異常

ガンなど の原因となる

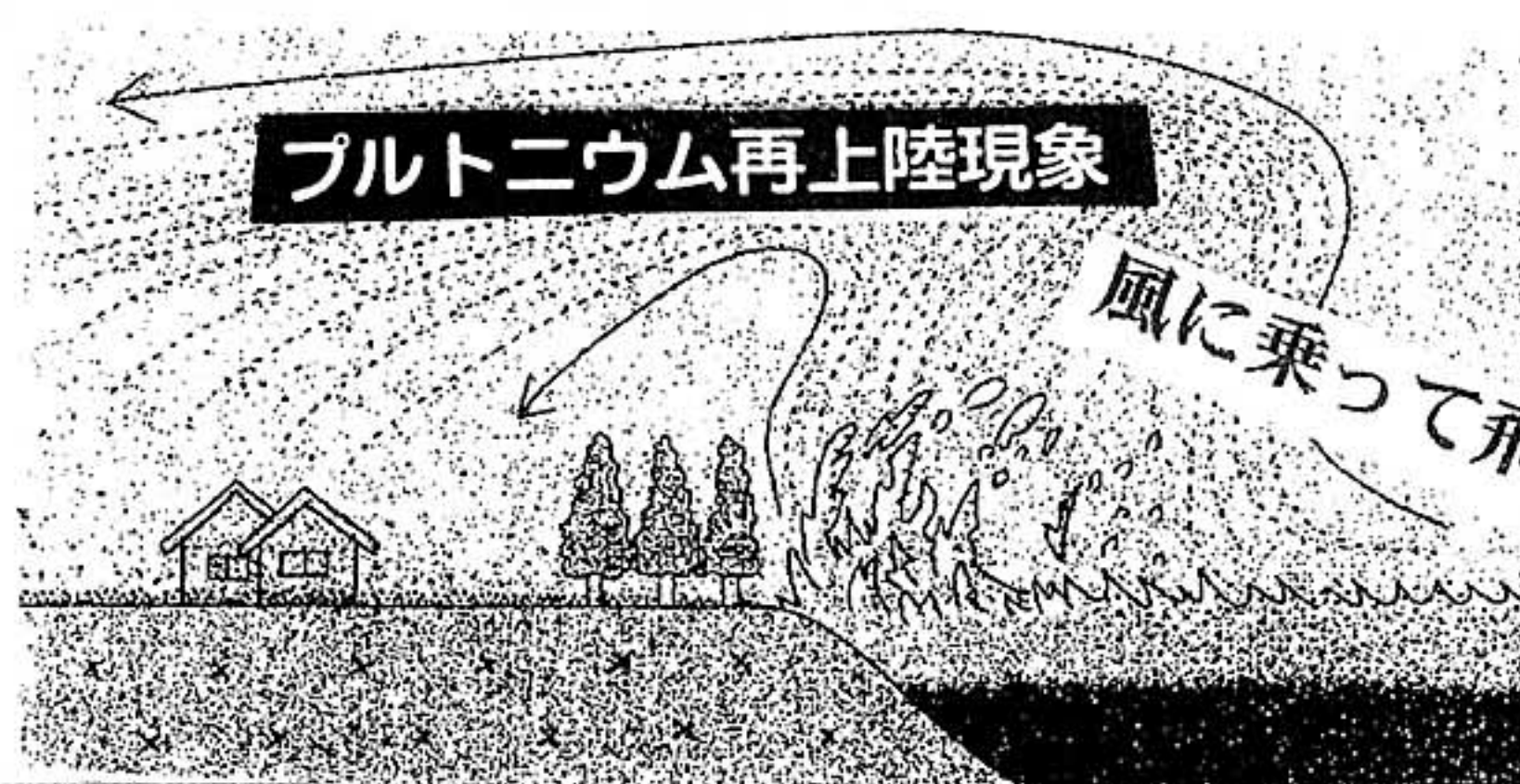
影響は
子ども 10倍
胎児 100倍

長い間



同じ量のプルトニウムでも、

空気中に漂う粒子を吸い込んだ場合の
被ばくは、魚介類の摂取による被ばくより
1万倍以上も危険



プルトニウム240 → 半減期 → 6500年

ヨウ素129 → 半減期 → 1600万年

参考

三陸の海を放射能から守る岩手の会 019-623-1636 《岩手の環境》
019-661-1002

発行

安心して食べたい会

TEL&FAX

055 262 2620